

1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2671100101
法人名	医療法人 啓信会
事業所名	グループホーム リエゾンくみやま
所在地	〒613-0033 京都府久世郡久御山町林中垣内38-1 (電話) 0774-45-5100

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年4月25日

【情報提供票より】(平成21年1月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 4 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有()	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	〇有(25万円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	650 円
	夕食	550 円	おやつ	110 円
	または 1日あたり		円	

(4) 利用者の概要(1 月 19 日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.1 歳	最低 78 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都きづ川病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は京都と滋賀において病院と介護保険事業所を幅広く展開しており、グループホームリエゾンくみやまは満3年になる。事業展開のため管理者が交代し、同時期に職員離職が続く、現管理者が立て直しの努力を続けている。ホームは近鉄大久保駅近くの住宅街にあり、洋風建て物は新築であり、内部を家庭的に工夫している。居間からの大きなサンデッキや広い畑は利用者の楽しみとなっている。①音楽療法士の訪問や②訪問看護との連携、③火事や災害時に拡声器を使って近隣に協力をお願いすること、④食事について詳細な検食日誌をつけていることなど、他にはない種々な工夫をしており、このホームの特徴である。利用者はそれぞれ個性的で、明るく会話があり、楽しそうな笑い声の多い時間が流れている。現管理者はまじめで、利用者や職員をよく見ており、信頼も厚い。今後は職員研修の充実と認知症ケアについてのレベルアップが望まれる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された点として、防火管理者や備蓄の準備等を改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価にあたって、自己評価は常勤職員で話し合った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	要綱はないものの、家族、自治会長、民生児童委員、久御山町長寿健康課担当者等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。意見はほとんどない。家族の希望で理容・美容の訪問が実現して喜ばれている。火災時には拡声器を使って大声で近隣の住民に知らせることを了承してもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会はないが、和太鼓の演奏会、外食レクリエーション、もちつき等の行事に家族を招待している。こられる家族は1~2家族なので、家族交流会はまだまだの感がある。ホームに対しても、今回の評価にあたって、とりたてて苦情がない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣近所は昔から住んでいる人で庭付き一戸立ての住宅、高齢者が多く、自治会に加入できていない。久御山町主催の福祉祭りには利用者の作品を出品し、ふるさとフェアや童謡を楽しむ会などに参加しており、そこで利用者は知人に出会って会話が弾んでいる。ホームの前の「古川をきれいにする会」は地域の人のボランティアで行われており、利用者も参加している。小学校に利用者が縫った雑巾を寄付している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を踏まえ、グループホームの理念は「ゆったり 一緒に こちよく」を職員みんなで話し合っ て決め、パンフレットに掲載している。ホーム内のリビングや 談話室にも掲示している。運営推進会議で説明し、地 域に周知を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる	理念はスタッフルームに掲示するとともに、職員更衣室 にも掲示している。職員は毎日の生活を利用者のペー スにあわせることを心がけており、自分の両親にたいす るように対応することを目指している。その日に予定が 決まる生活を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自 治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地 元の人々と交流することに努めている	隣近所は昔から住んでいる人で庭付き一戸立ての住宅、高齢者が 多く、自治会に加入できていない。久御山町主催の福祉祭りには利 用者の作品を出品し、ふるさとフェアや童謡を楽しむ会などに参加し ており、そこで利用者は知人に出会って会話が弾んでいる。ホーム の前の「古川をきれいにする会」は地域の人のボランティアで行われ ており、利用者も参加している。小学校に利用者が縫った雑巾を寄 付している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具 体的な改善に取り組んでいる	今回の評価にあたって、自己評価は常勤職員で話し 合った。前回の評価で指摘された点として、防火管理 者や備蓄の準備等を改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	要綱はないものの、家族、自治会長、民生児童委員、久御 山町長寿健康課担当者等がメンバーとなり、隔月に開催さ れ、記録が残されている。意見はほとんどない。家族の希望 で理容・美容の訪問が実現して喜ばれている。火災時には 拡声器を使って大声で近隣の住民に知らせることを了承し てもらっている。		

京都府:グループホームリエゾンくみやま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	久御山町の担当者とは運営推進会議以外にはほとんど連携がとれていない。	○	久御山町として認知症理解と啓発のための町民向けの講習会を開催し、グループホームの専門性を生かして、管理者等が講師として活躍できることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	半月ごとや毎月来る人など、家族の面会は多い。その際に情報交換している。広報誌『ほっと便り』は毎月発行され、ホームでの利用者の様子がよくわかるように写真がたくさん掲載されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、和太鼓の演奏会、外食レクリエーション、もちつき等の行事に家族を招待している。こられる家族は1~2家族なので、家族交流会はまだまだの感がある。ホームに対しても、今回の評価にあたって、とりたてて苦情がない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今回法人が新規事業所を立ち上げたことに伴い、管理者の交代があり、同時期に職員の離職が6人あった。それぞれが事情があつての離職ではあるが、グループホームでの混乱は大きい。異動していった前管理者には利用者が励まして送り出してくれた。離職を防ぐためにはシフトの配慮をしており、親睦会などもしている。会議等では意見が言いやすいように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の実践者研修とバリデーションの研修に参加しており、伝達研修を実施している。法人内研修には常勤職員が参加しているが、グループホーム内部の勉強会等はない。資格取得のためには勉強会で支援しており、資格手当もある。個人の目標は職員自身が毎年書いて上司の面接を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の小規模多機能型居宅介護事業所ひしの里がすぐ近くに開設されており、職員同士は交流している。他のグループホームとは交流していない。	○	職員が他のグループホームを見学し、職員同士の交流をすることは職員にとって大きな研修効果があるので、取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前には見学してもらうようにしており、利用者と家族が見学にこられている。利用が始まると、新しい人を受け入れない利用者があることもあり、新しい利用者はトイレの場所がわかりにくかったり、いろいろと混乱することが多いこともあり、十分見守りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とは共に生活するもの同士として、ゆったりと自由に生活してもらっている。戦争の話や戦時中は蚊帳のつり手までもっていかれたなどの話を聞かせてもらう。昔の料理や園芸の作業を教えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申込時に見学に来られたときに、利用者や家族から意向を聞き、訪問面接している。この際もじっくり意向を聴いている。利用が始まると、担当職員を決め、アセスメントをとっている。生活歴や趣味・嗜好の情報はほとんどない。	○	利用者や家族が望む生活を明確に述べることは難しいので、利用者の生活歴や趣味・嗜好を聴取したり、それまでの生活状況を把握して、継続した支援ができるようにすることが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のアセスメントにはADL、食事、排泄、健康状態、既往歴、薬情報、家族構成等が記録されている。アセスメントは職員が意見を出し合っているが、介護計画はケアマネジャーが立てている。介護計画は抽象的で、生活の楽しみがほとんどない。	○	上記で収集した利用者の情報をもとに、介護計画は個別・具体的であることが望まれる。また生活のなかの楽しみを積極的に項目に入れること、職員などのアイデアを取り入れて介護計画を立てることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の毎日の状況は「ケアプラン実施状況記録」という様式をつくり、記録に残している。ケアプランにそって書くことを努力している。利用者の状況や行動は書かれている。モニタリングは担当職員が行っている。カンファレンス会議録は結論のみが書かれている。	○	利用者の毎日のケアの実施は、介護計画にそって項目ごとに実施したかどうか、実施したときの利用者の表情や発言、実施を拒否されたときの考察等を記録に残し、モニタリングの根拠とすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性と生かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理容、美容については訪問してくれる店があり、利用者は利用している。料金が安いので家族は喜んでいいる。同法人の小規模多機能型居宅介護事業所「ひしの里」とは近いので、ヤクルトの工場見学などを合同で実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への受診は家族が同行しているが、職員が同行することもある。家族に「経過記録文書」を渡し、ホームでの情報を提供している。受診結果は電話等で医師から聞いたり、書いてくれる医師もいる。近くの医院は迎えに来てくれるので利用している利用者もいる。認知症専門医とは連携がとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとしてターミナルケアについての方針が決まっていない。利用者や家族の意向確認ができていない。職員は最期までお世話したいという人とできないという人と、両方の意見がある。今、近くの内科医と協力依頼の話をしている。	○	職員と十分話しあい、ターミナルケアについての方針を決定し、明文化するとともに、利用者や家族ともその方針によって話しあいをし、意向を確認することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレのドアは中から鍵をかけることができ、かける利用者もいる。居室のドアは鍵はなく、他人の部屋を開ける人がいないように見守りに対応している。部屋のドアにつっかい棒をする利用者もいる。トイレ誘導の声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は朝5時半に起きる人から9時まで寝ている人までいろいろで朝食はバラバラである。寝るのも早い人は7時半に寝てしまい、遅い人は11時まで起きている。いずれも日課に関係なく、利用者の自由である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は1週間分を決めており、高齢者の食べ慣れた和風献立である。毎日食事当番の職員が利用者と一緒に食材の買い物に行き、調理からあとかたづけまで利用者と一緒にしている。鍋料理やホットプレートを使ったやきそばなどもメニューにのぼる。外食は毎月1回、昼食かおやつで希望者が出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広いが湯船は大きくはなく、入りやすく、落ち着く。週3回の入浴を支援しているが、希望があれば毎日でも入れる。大体夕食前の時間帯で夜間入浴はできていない。マンツーマンの同性介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の役割はおしぼりを干したり、畳んだり、洗濯物干しと取り入れてたたむ、掃除をする人もいる。畑や花壇の水やり、野菜の収穫、あいさつ係の人もいる。音楽療法士が毎週きており、キーボードで歌を歌っている。地域の「童謡を楽しむ会」にも参加している。木の枝に紙でつくった桃の花をつけ、飾っている。雑巾を縫ったり、毛糸の飾りつくりも楽しみである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園では子どもと話ができるので利用者のお気に入りである。隣にあるスーパーにも毎日買い物にも行く。近くの雙栗神社への初詣と祭り見物、梅林園へ梅見、京阪奈記念公園へ花見、近くの団地の桜並木で花見、三室戸寺へアジサイ見物、井手フルーツラインへ鑑賞等々、季節ごとの行事外出をしている。利用者の個別外出は家族に了解をとり、毎週タクシーでジャスコやサティに買い物に行っている利用者がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路からの鉄柵、玄関ドア、庭からの出入り口、勝手口等、すべて施錠されていない。居間から庭にできる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、感知器、防火管理者等が設置されており、消防計画を作成し、備蓄を準備している。スプリンクラーについては設置の義務がない。夜間想定も含めた避難訓練を実施している。運営推進会議でお願いし、災害時には拡声器を使うこと、近隣住民に応援をお願いすることが了承されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「食事・検食・衛生管理日誌」に、検食者、調理担当者、検食時間、材料、衛生チェック、食材や残食の処理、味の点数、感想等々の項目で記録が残されている。利用者の食事摂取量の記録がある。毎月法人の栄養士が来訪し、献立のカロリー値と栄養バランスについて点検し、コメントを残している。利用者の水分摂取量の記録が期待される。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	低い鉄柵を入ると玄関までにバンジーを植えたプランターが並んでいる。玄関土間の下駄箱の上に人形を飾り、片隅に観葉植物の鉢がある。居間兼食堂とオープンキッチンが中央にあり、居間から庭には広いサンデッキがあり、花を植えたプランターが置いてある。外は芝生で洗濯物を干しており、その奥には砂場や畑があり、葱や菜の花が見える。居間のまわりに居室やトイレ、浴室が並んでいる。廊下にも観葉植物の鉢があり、壁に花の水彩画が掛かっている。食卓には手作りの一輪さしに椿とすずらんが生けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋間で、ベッドを置いている。クローゼットが備え付けになっている。利用者はダンス、机、椅子、衣装ケース等を持ち込んでいる。テレビ、カレンダー、時計等を置き、手づくりの絵を壁にかけている。机で『文芸春秋』を読んでいる利用者もいる。		